

2022年度論文チューターワークショップ報告書

文責:浅利、金井、金

1. 概要

△開催の目的

- ①留学生が「自立した書き手」になるために論文チューターができること、意識すべきことを学ぶ。
- ②添削の効率・効果を高めるための考え方や手法を共有する。
- ③論文チューターが直面する課題や質問に応える場を提供する。

△日時

2022年10月28日(金)、2022年12月2日(木) 17:30~19:00

△場所

国際研究館 1階 国際教育交流センター 会議室

△参加者

第1回 8名、第2回 9名、計17名

2. プログラム

17:30-17:40	参加者スタッフ自己紹介、開会挨拶(塚田英恵先生)
17:40-18:00	日本語教育専門教員からのスキル講座(太田先生、早川先生)
18:00-18:10	非同期型添削(個人で5分作業)
18:10-18:20	同期型添削(ロールプレイ5分×2回)
18:20-18:40	全体での振り返り
18:40-	質疑応答、事務連絡
19:00	閉会

3. 役割分担

- ①日本語教員との連絡、調整・当日の司会進行:浅利
 - ②事前アンケート・事後アンケート・問い合わせフォーム、パワーポイント作成:金
 - ③添削物編集・送付、リマインド送付:金井
- *複数回のオンラインミーティングを通じた意見交換を欠かさず、google driveでフォルダを共有し、準備を進めた。

4. WS コーディネーターの活動スケジュール

9月19日(水) 18:30-19:30 担当者打合せ(ZOOM)
9月23日(金) 18:00-17:30 担当者打合せ(ZOOM)
9月30日(金) 18:00-19:00 担当者打合せ(ZOOM)
10月5日(水) 13:15-15:00 中間打ち合わせ(ZOOM)
10月19日(金) 18:00-19:30 担当者打ち合わせ(ZOOM)
10月21日(金) 13:15- 最終打ち合わせ(ZOOM)
10月28日(金) 17:30-19:00 ワークショップ当日
11月27日(月) 19:00-20:00 担当者打ち合わせ(ZOOM)
12月1日(木) 17:30-19:10 ワークショップ当日
12月2日(金) 13:15-14:00 振り返り会(ZOOM)

5. 各コーディネーターからの振り返り

△浅利

今年度のワークショップは対面で行うことができ、参加者同士の直接的なやりとりが活発にできたという点でよかったと思う。2回に分けて行ったことも、1回目の時よりも時間的な余裕を作ることができたり、参加者同士のコミュニケーションをより取りやすくする工夫などができてよかった。10月と12月というチューター活動が進んでいく中でワークショップが開かれることは、参加する側にとっても意味のあることだと思うので、同じ内容であっても時期をずらしての2回開催は続けていった方がよいのではないかと考える。もし、内容を変えて2回行うのであれば、コーディネーターのチームも二つ必要だと思う。一人で留学生の論文と向き合うチューター活動は悩みや困り事も多いだろうし、それを一人で抱えこまずにチューター同士で共有できる場があることが、このワークショップの意義であると思う。また日本語教育の専門の先生からのアドバイスを聞くことができるのもとても有意義な時間であると感じられた。限られた時間の中で何を大切にするのかを常に意識してワークショップを作っていくことが大切であると考え。来年度もさらによいワークショップが作られていくことを期待したい。どうもありがとうございました。

△金井

ワークショップでは各々が抱えているとまどいや不安は共通のものであることがわかった。例えば留学生の論文にどこまで介入してもよいか、自分の知識不足に関してである。留学生が求めているニーズを明確にし、それにどこまで答えられるかについても事前に協議し、同意のうえでチューター活動を進めていくことが良いという根本的な事柄の大切さを改めて認識した。

今回のワークショップ開催が少しでも役立ち、一人一人のチューター活動がより良いものとなるよう願っている。コーディネーターとしての達成感があった。

しかし開催後のアンケート回収率は低い。少ない回答によればほとんどが義務的な出席であり、チューター自身が問題意識を持っていないためにワークショップで得る物も無かったようである。元も子もないが本当に開催する意義はあったのか、正直疑問が生じた。義務だから出席して、いわれるままの課題をするだけでは出席の意義を感じられなかったことだろう。

また、コーディネーターの活動時間は32時間であるが、やらなければならないことが多岐に渡り実際は32時間を優に超え、サービス残業となっている。ミーティングだけでも10回行い、ミーティングごとにまとめを行っている。さらに配布資料作成、メールチェック、メール送信、肝心のワーク

ショップ開催、活動報告書作成に加えてチューターの駆け込み寺的なものにも答えるとしたら、時間が足りる訳がない。活動時間設定について、検討されたい。

△金

対面開催にしたことで、機材トラブルの心配をせず本番を迎えることができた。また、事前アンケートの内容を吟味し作成したことで、論文チューターの皆さんがどのような困りごとがあるのかということ把握できた。それに基づいたワークショップの運営、進行ができ、ニーズをうまく捉えられたと思う。参加者も8-9名で、各回共に意見交換が活発に行われる規模感であった。しかし、チューターの悩みを解決できたか、解決に貢献できたかと問われると、これは課題であると考えられる。そもそも解決はできないことは大前提にしつつ、適切な返答がされたかという点において、コーディネーターもチューターも同程度の経験やスキルしか持ち合わせておらず、建設的な意見のやり取りであったかは疑問である。

反面、リマインドを送ったにも関わらず、感想アンケートの回答率が低いため、ワークショップ後にその場で回答していただく方式に変更した方が良いだろう。

* 12/2 振り返り会での意見

- ・ロールプレイを短くして良かった。
- ・マーカーを引くなどを全員で試して非同期型添削を行うことも良い。
- ・日本語教員の方が教えてくださった新しい手法を試す場があっても良かった。
- ・早川先生、太田先生のお話がとてもよかったので、ポイントなどまとめた資料を出すといい。
- ・非同期型、同期型両方を行う意味はある。
- ・ワークショップに参加していないチューターへのフォローアップが必要なのではないか。
- ・ペアの留学生にも参加してもらおうといい。その場合には、ワークショップの目的なども変わってくるので、現行の内容とは別にした方が良い。
- ・2回開催なら、1回目は現在のチューターWS、2回目は留学生とのペアワーク、1回目はツール紹介、2回目は実践という風に変えると良い。

6. アンケート結果

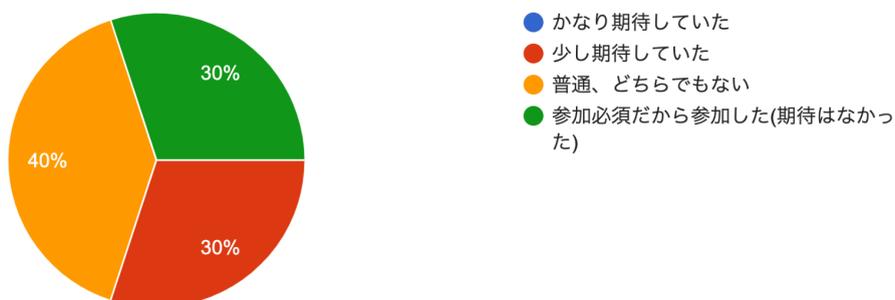
2022年12月8日時点

ワークショップ参加者数: 17人 / アンケート回答数: 10

(1)参加前の期待度

参加前の期待度を教えてください

10件の回答

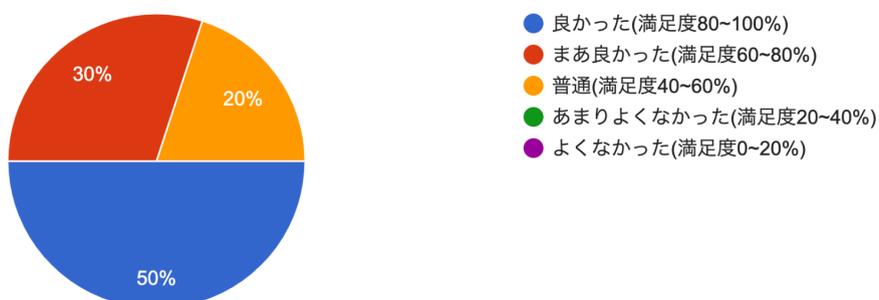


→期待していたのは30%にとどまり、7割の参加者は受動的な参加であったことがわかる。周知の仕方(開催趣旨を説明する機会、ポスターの宣伝文言)の再検討をするべきかもしれない。さらに開催意義がどれくらいあるのかについても検討の余地がある。

(2)感想

感想を教えてください

10件の回答

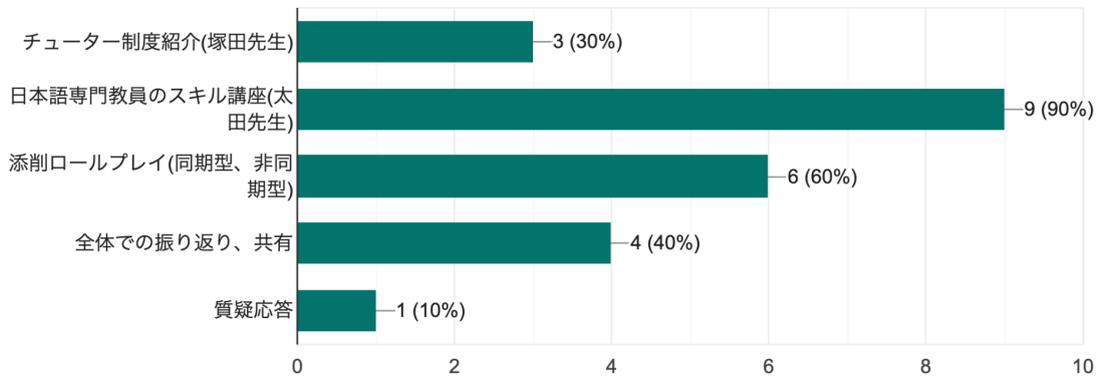


→満足度は比較的高いと考えられるが、1時間30分も時間を捻出してもらっただけに、内容の再検討は必要かもしれない。チューターの悩みを解決できるような内容にフォーカスする形を生み出すことが期待される。

(3)有意義であったプログラム

有意義であったプログラムを教えてください(複数選択化)

10件の回答



→日本語教員からのスキル講座と添削実践が評価が高く、振り返りや共有はあまり評価が高くない。後者においては、振り返りや共有において、斬新な意見やためになる意見があまり出されず、「難しいですね」に終始する議論しか行われなかったことが関係していると考えられる。(* 2 つ目が「スキル講座(太田先生)」となっており、早川先生のお名前も入れようと試みたが、設問の内容を変えると新しい質問として認識され、これまでの回答結果が反映されなかった。そのため、()内は保持した。作成時のミスである。)

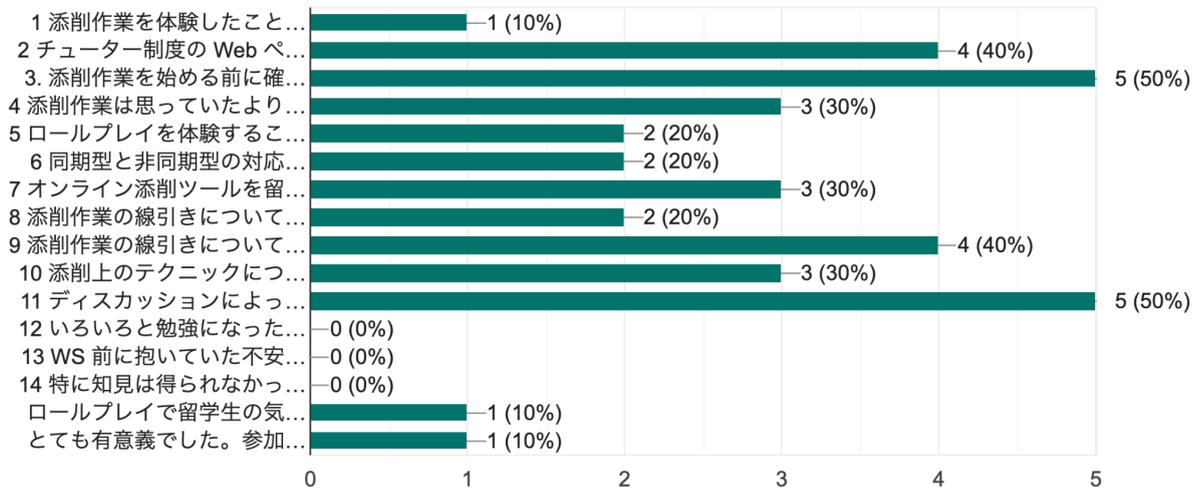
(4)感想

項目(回答数)

- 1 添削作業を体験したことにより効率的な時間配分ができそう。(1)
- 2 チューター制度の Web ページにあるツールを使ってみたい。(4)
3. 添削作業を始める前に確認すべき事項がわかった。(5)
- 4 添削作業は思っていたより難しいと感じた。(3)
- 5 ロールプレイを体験することで留学生の気持ちになれた。(2)
- 6 同期型と非同期型の対応の違いについて理解ができた。(2)
- 7 オンライン添削ツールを留学生に勧めて、添削の効率化をはかりたい。(3)
- 8 添削作業の線引きについて理解できた。(2)
- 9 添削作業の線引きについて理解はできたが、実行できるか不安。(4)
- 10 添削上のテクニックについて(表記など)知ることができた。(3)
- 11 ディスカッションによって情報共有や相談ができたことはよかった。(5)
- 12 いろいろと勉強になったが、論文締め切り前に添削指導のみで済むか不安である。(0)
- 13 WS 前に抱いていた不安は概ね解消された。(0)
- 14 特に知見は得られなかった。(0)

感想として当てはまるものを教えてください(複数選択可)

10件の回答



自由記述

①ロールプレイで留学生の気持ちになることは難しいと思います。私の理解力不足もあると思いますが、与えられた役回りの指示もわかりにくかったです.....

②とても有意義でした。参加できて良かったです。

→有意義だったプログラムと連動しているようである。自分以外の添削方法を知ることから得たものがあつたことが読み取れる。非同期型、同期型の実践から学びが多かつたと考えられる。

(5)その他の意見

* 第1回参加者の方から以下の丁寧なコメントをいただいた。

本日は貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。
問い合わせホームも、何かあつたときに相談できるので、とても心強いです。

以下長文となりますが、
私なりに本日のワークショップを自分だったらどう運営するかを考え書いてみました。
運営に際してさまざまなご苦勞やご事情があると思いますが、
少しでも今後のお役に立つことができれば幸いです。

太田先生が仰っていたように、「添削を通して、留学生に自立した書き手になってもらう」ことがチューターの役割であると思います。

本日のようなワークショップ(特にチューター経験が浅い方たちを対象とする場合)においては、

①添削の方法を考える活動(技術的側面)

②自立した書き手になる手助けをする方法を考える活動(コミュニケーション的側面)

のように、二つの側面に分けた方が、参加者は活動しやすいのではないかと思います。

それぞれの具体的な活動内容ですが、今の段階で思いつくのは、

①は、ミスの種類によってどのように直すことが適切か、添削方法を検討し共有します。太田先生が示してくださったような色分け方法を実際に行うのもおもしろそうです。

②は、さまざまな性格や事情を抱える留学生をモデルケースとして取り上げ、添削に際してどのように接すればいいかを考えます。たとえばプライドの高い学生には、こちらからミスを指摘する前に、まずは「書いてみて日本語の表現に迷った部分を教えてください」と伝えて、その部分を一緒に考えてからチューターが見つけたミスを伝えることも有効ではないでしょうか。

7. 駆け込み寺試行状況

初回会議において、昨年度提案された改善点として駆け込み寺を設定することを共有いただいた。それを踏まえて、今年度、試験的にGoogleフォームを用い、チューター活動の中で、何か困りごとが発生した場合の問い合わせ窓口を設けた。第1回ワークショップから1月30日まで運転したが、問い合わせは一件も無かった。必要性が高くないことが認められる。アンケートやワークショップでは、問い合わせ窓口があれば助かるという声は複数聞かれたが、実際の活動の中では必要とされること、想起されることは少なかったのであろう。

8. 非同期型、同期型添削資料

資料は事前にメールで送付し、当日使用した。同期型添削では、留学生役の方に指示書(あなたは気が弱い留学生で、明日までに添削を終わらせて欲しいことが言えません。あなたは完璧主義の留学生ですので、変更箇所について納得のいく説明が得られるまで粘り強く質問してください。など)を渡した。

・これは論文添削チューターワークショップで使用する資料です。

・資料の文章は、実際に留学生が作成したものです。

・ワークは「非同期型」、「同期型」の二種類です。

1、「非同期型」チューターが一人で添削を行う。

2、「同期型」チューターと留学生が同じ空間でやり取りしながら行う。

・なお、「同期型」のワークを行う際、「留学生役」「チューター役」を交互に体験し双方の立場を経験して頂きます。この経験を通じて活発なディスカッションを生むことがねらいです。取り組みの最中に感じた疑問、とまどい、改善点などをメモしながら行ってください。

非同期型

・担当している留学生の論文を添削すると想定して、普段通りの方法で添削してください。(制限時間5分)

※最後まで添削が終わらなくても大丈夫です。

以下、非同期型課題①

第2項 ナイジェリアの経済概況

① ナイジェリア国内外について

ALCレポートナイジェリア(2017・2018)により、アフリカの東部に位置するナイジェリアは人口ではサブサハラ・アフリカ全体の約20%を占める1億8900万人(推定)を有し、アフリカ最大の産油国であり天然ガス埋蔵量国で、1971年には世界の有望産油国として石油輸出国機構(OPEC: Organization of Petroleum Exporting Countries)のメンバーとなった。ナイジェリアは巨大な人口と石油資源に裏打ちされた経済力、将来の発展の潜在性などから見れば、サブサハラ・アフリカでは南アフリカに次ぐ大国である。近隣の国々の多くが旧仏領国であるのに対して、ナイジェリアは英連邦加盟国であり、経済力でも突出している。また、ナイジェリアは西アフリカ地域およびアフリカ大陸における指導的国家を自認し、アフリカ連合(AU: African Union)では主導的立場に立ち、ナイジェリアが提唱した西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS: Economic Community of West African States)などを通じ、積極的なアフリカ外交を展開している。

② ナイジェリアと中国の関係

中国はアフリカ外交を積極的に行っており、アフリカのスポークスマンの立場をとるナイジェリアとの外交を重要視する立場を鮮明にしている。ナイジェリアは中国にとってアフリカで最重要の戦略的パートナーであり、西アフリカでももっとも重要な国である。北京にとってのナイジェリアの魅力は、数々のポイントに依拠している。

- ・ギニア湾地域における戦略的ロケーション
- ・人口1億8千万人の、潜在的に巨大な国内消費市場
- ・アフリカ連合(AU)、西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)、Nepad、Ecowas、Ecomogといった機関における大陸的で地域的な影響力
- ・もっとも重要な点として、莫大な石油埋蔵量
- ・発達の金融機関が、人民元建て決済や人民元の国際化への促進

特に人民元の国際化について、中国政府は人民元の国際化方針を掲げており、人民元を貿易代金の支払に使う人民元建て決済が急増している。人民元建て貿易決済は2009年7月に貿易相手国・地域を限定して試験的に開始されたが、これはクロスボーダー取引での人民元利用を正式に認めたという点で人民元国際化の第1歩と言える。

また、金融面でナイジェリアと中国のつながりを見たい。中華人民共和国商務部のホームページ(2014)により、【十三家尼日利亚银行跻身世界银行 1000 强】“13 行のナイジェリア銀行は世界ランキング前 1000 に登る”(20140707)

《銀行家》雑誌の主編 BLain Caplen(2014)によって、全世界銀行の利益は相当な部分が中国で実現し、大体 32%に占め、この数字は中国の相次ぎ並んでいるアメリカ、日本、カナダの総額よりも多いと述べている。2014 年にアフリカの銀行は世界ランキング前 1000 位リストの中で、31 行がある。その中、ナイジェリアの銀行は 13 行で、41.94%に占め、前 8 位の銀行がすべてナイジェリア独占している。この 31 行の銀行は以下の 9 カ国を含んでいる:ナイジェリア、南アフリカ、エジプト、アンゴラ、カボ、ケニア、モリシャース、モロコ、トーゴである。序章で紹介した通り、中国工商銀行とナイジェリア中央銀行やスタンダード銀行の協力がすでに行われており、ナイジェリアと中国は共に金融業が発達し今後更なる連携を期待している。

表2:ナイジェリアの対中国貿易の推移 (単位:百万ドル) (出典:comtLade により、筆者作成)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
輸入	376	109	140	134	57	95	42	68	73	55	67	130	131	131	97	94	53
輸出	306	259	119	71	46	52	27	70	46	92	110	116	116	230	132	170	74

次は、表2のナイジェリアと中国貿易の推移について見ていきたい。2000年から2013年の間に、2008年のリーマンショックを経験したが、輸出輸入が総体的に上々に上がっている状態である。特に2007年以後、中国からは輸入の大幅な伸び、ナイジェリアにとって中国は最大の輸入相手国になり、2015年には中国からの輸入は前年比3%減となったものの総輸入の23.4%、アジア地域の53.3%を占め第1位の輸入相手国になっている。
(非同期型課題①ここまで)

同期型

同期型課題①:「留学生役」の方へ

あなたは留学生として、担当チューターの学生に自分の論文(テーマは中国で情報公開に関する法令が定められた契機)の日本語添削を依頼しました。(制限時間は5分間です)

※最後まで添削が終わらなくても大丈夫です。

(以下、同期型課題①)

旧条例制定の契機

例えば日本における政府情報へのアクセスについての国民の関心を高める大きな契機となったのが、1971年のアメリカにおけるベトナム秘密文書報道事件や1972年の外務省秘密電文漏洩事件であると言える。更に、1976年に発覚したロッキード事件は、政府情報の公開が不十分であることを国民に強く認識させ、情報公開制度の整備を求める世論を喚起する大きな契機となった[1]。では、中国における情報公開制度の契機として何が起きたか。

SARSを中国の政府情報公開制度の契機とすることはよく見える。例えば、「中国政府は、2003年春の中国・広東省を発生源とする重症急性呼吸器症候群(SARS)危機において、情報公開の立ち後れが国際的な批判を受けたことなどを契機として、情報公開の拡大とそのため制度整備に向けた取組を加速した[2]。」又は「2003年SARS事件をきっかけとし、政府情報公開の重要性は人々に切実なものとして認識されるに至り、その結果政府情報公開の要求や呼びかけが強まっていくこととなった[3]。」

しかしながら、中国社会科学院法学研究所が、国务院の依頼を受けた時点は2002年5月である。同年7月に他の国と地区の制度を翻訳し分析した上で「中華人民共和国政府情報公開条例(専門家草案)」を提出した[4]。中国におけるSARSの初感染者は2002年11月に発生し、来年2月10日の記者会見でSARSの発生を公表した。つまり、

SARS が発生した前に、「政府情報公開条例」ももう国務院の立法計画に取り入れられた。こうすると、SARS を「政府情報公開条例」の契機とすることは言いにくいと思われるだろう。

[1]宇賀 克也『新・情報公開法の逐条解説[第 8 版]』2018 年有斐閣 10 頁。

[2]岡村志嘉子「中国における政府情報公開条例の改正」『外国の立法：立法情報・翻訳・解説』2019 年第 9 期 79 頁。

[3]劉恒「中国政府による情報公開制度：歴史、現状と展開」『法政研究』2008 年 75(1) 68 頁。

[4]張明傑『開放的政府・一政府倍息公開法律制度研究』2003 年中国政法出版社

219 頁。[5]唐亮「情報公開制度の整備」『アジア研ワールド・トレンド』2006 年 No.130 13 頁。

以上、同期型課題①

同期型課題②：チューター役の方へ

あなたはチューターとして、担当する留学生が書いた論文(テーマは中国で情報公開に関する法令が定められた契機)を添削しています。(制限時間は5分間です)

※最後まで添削が終わらなくても大丈夫です。

以下、同期型課題②

旧条例制定の契機

例えば日本における政府情報へのアクセスについての国民の関心を高める大きな契機となったのが、1971 年のアメリカにおけるベトナム秘密文書報道事件や 1972 年の外務省秘密電文漏洩事件であると言える。更に、1976年に発覚したロッキード事件は、政府情報の公開が不十分であることを国民に強く認識させ、情報公開制度の整備を求める世論を喚起する大きな契機となった[1]。では、中国における情報公開制度の契機として何が起きたか。

SARS を中国の政府情報公開制度の契機とすることはよく見える。例えば、「中国政府は、2003 年春の中国・広東省を発生源とする重症急性呼吸器症候群(SARS)危機において、情報公開の立ち後れが国際的な批判を受けたことなどを契機として、情報公開の拡大とそのため制度整備に向けた取組を加速した[2]。」又は「2003 年 SARS 事件をきつ

かけとし、政府情報公開の重要性は人々に切実なものとして認識されるに至り、その結果政府情報公開の要求や呼びかけが強まっていくこととなった[3]。」

しかしながら、中国社会科学院法学研究所が、国務院の依頼を受けた時点は 2002 年 5 月である。同年 7 月に他の国と地区の制度を翻訳し分析した上で「中華人民共和国 政府情報公開条例(専門家草案)」を提出した[4]。中国における SARS の初感染者は 2002 年 11 月に発生し、来年 2 月 10 日の記者会見で SARS の発生を公表した。つまり、SARS が発生した前に、「政府情報公開条例」もう国務院の立法計画に取り入れられた。こうすると、SARS を「政府情報公開条例」の契機とすることは言いにくいと思われるだろう。

[1]宇賀 克也『新・情報公開法の逐条解説[第 8 版]』2018 年有斐閣 10 頁。 [2]岡村志嘉子「中国における政府情報公開条例の改正」『外国の立法：立法情報・翻訳・解説』2019 年第 9 期 79 頁。

[3]劉恒「中国政府による情報公開制度：歴史、現状と展開」『法政研究』2008 年 75(1) 68 頁。

[4]張明傑『開放的政府・一政府倍息公開法律制度研究』2003 年中国政法出版社 219 頁。 [5]唐亮「情報公開制度の整備」『アジア研ワールド・トレンド』2006 年 No.130 13 頁。

以上、同期型課題②

同期型課題③:「留学生役」の方へ

あなたは留学生として、担当チューターの学生に自分の論文(テーマは中国の社会 信用システム)の日本語添削を依頼しました。(制限時間は5分間です)

※最後まで添削が終わらなくても大丈夫です。

以下、同期型課題③

・はじめに

本研究の背景

近年、中国における社会全体の信用度が低下したことによって、社会の通常秩序を崩壊させていく傾向がより深刻になっていく。社会ガバナンスの面でこれに直面していた。例えば、2018 年に全国のオーバードラフトの合計は約 7 億元に達し、前年度を 23.2%上回った。また、法院の発効済みの文書を受け取った後、財産を譲渡したり居場所を隠したりするなどの執行逃れ現象も益々増えている。

このような状況に対し、2007年初頭に、国務院は『社会信用システムの構築に関する若干意見』を公布し、「信用」の重要性が始めて示された。2013年に、『与信業管理条例』、『社会信用システム構築綱要(2014-2020)』も次々と公布された。社会信用システムの構築に対し、多くの法律法規が公布されていたが、中国の社会信用システムおよび関連する法制度の構築はまだ始まったばかりである。与信業、信用喪失懲戒メカニズム、信用情報の保護などの分野での法制度は比較的に遅れている。社会信用システムの構築と健全化するために効果的な法制度をどのように制定するのか、は中国政府が今直面している課題である。

本稿の目的および構成

本稿は以下の2つの問いに答えることを目指す。第一は、社会信用システムの仕組みはどのようなものなのかである。第二は、社会信用システムはどのような問題点を持っているのかである。1章では社会信用システムの関連用語について説明し、アメリカ、ドイツ、日本における信用システムの特徴と法制度をそれぞれに紹介しておく。2章では、中国における社会信用システムの概要について説明する。つまり、社会信用システムの定義、導入された経緯、立法現状および参加主体を詳細に解説する。3章では、社会信用システムの仕組みを明らかにすることを目指す。そのため、「ゴマ信用」と『山東省栄成市住民信用評価方法』を例として挙げられる。最後、4章では、社会信用システムの問題点を指摘し、最新の政策文書を照らし、構築の行方を展望する。

以上、同期型課題③

同期型課題④:「チューター役」の方へ

あなたはチューターとして、担当する留学生が書いた論文(テーマは中国の社会信用システム)を添削しています。(制限時間は5分間です)

※最後まで添削が終わらなくても大丈夫です。

以下、同期型課題④

・はじめに

本研究の背景

近年、中国における社会全体の信用度が低下したことによって、社会の通常秩序を崩壊させていく傾向がより深刻になっていく。社会ガバナンスの面でこれに直面していた。例えば、2018年に全国のオーバードラフトの合計は約7億元に達し、前年度を23.2%上回った。また、法院の発効済みの文書を受け取った後、財産を譲渡したり、居場所を隠したりするなどの執行逃れ現象も益々増えている。

このような状況に対し、2007年初頭に、国務院は『社会信用システムの構築に関する若干意見』を公布し、「信用」の重要性が始めて示された。2013年に、『与信業管理條例』、『社会信用システム構築綱要(2014-2020)』も次々と公布された。社会信用システムの構築に対し、多くの法律法規が公布されていたが、中国の社会信用システムおよび関連する法制度の構築はまだ始まったばかりである。与信業、信用喪失懲戒メカニズム、信用情報の保護などの分野での法制度は比較的遅れている。社会信用システムの構築と健全化するために効果的な法制度をどのように制定するのか、は中国政府が今直面している課題である。

本稿の目的および構成

本稿は以下の2つの問いに答えることを目指す。第一は、社会信用システムの仕組みはどのようなものなのかである。第二は、社会信用システムはどのような問題点を持っているのかである。1章では社会信用システムの関連用語について説明し、アメリカ、ドイツ、日本における信用システムの特徴と法制度をそれぞれに紹介しておく。2章では、中国における社会信用システムの概要について説明する。つまり、社会信用システムの定義、導入された経緯、立法現状および参加主体を詳細に解説する。3章では、社会信用システムの仕組みを明らかにすることを目指す。そのため、「ゴマ信用」と『山東省榮成市住民信用評価方法』を例として挙げられる。最後、4章では、社会信用システムの問題点を指摘し、最新の政策文書を照らし、社会信用システムの構築の行方を展望する。

以上、同期型課題④